モニュメント「地・天」の完成式が開催される

「市民の会」の願いと彫刻家三村力先生の思いが一緒になって、素晴らしいモニュメントがようやく完成し、その式典が２月２８日(土)に「桜の森公園」の戦争遺産ゾーンでおこなわれました。春に三日の晴れ間なし、と目まぐるしく変わる天候のなかで、温かな日和に恵まれました。春の日差しが 4 本の御影石に取り付けられた螺旋状のステンレスの輪に眩しく照りつけ、あたかも式典を祝福しているような穏やかな一日でもありました。

式典には、「桜の森公園」の開園式に引き続き、末松鈴鹿市長、原田市議会議長をはじめ、多くの関係者のご臨席とともに、三村先生をはじめモニュメント制作に募金を頂だいした方々、そして「市民の会」の仲間が一堂に会し、約１００人の出席を得て開くことができました。テープカットは、巨大なモニュメントの前で末松市長、原田議長、三村先生、加藤・竹内両代表の５人により行われ、完成を喜びあいました。出席者からも「歴史を振り返る」大切さや、「平和の尊さ」を訴える、非常に重みのあるご挨拶をいただきました。今、国内外で起こっている悲惨な事件を重ね合わせ、いろいろ考えさせられた１日でもありました。

「市民の会」の発足にも端を発した鈴鹿海軍航空隊の３棟の格納庫は長い保存運動にもかかわらず姿を消してしまいましたが、これからは移設されて保存されることになった航空隊の正門、番兵塔と併せて、この一角が『鈴鹿市の誕生』の歴史を永く語り伝える場となっていくことが楽しみです。そして、若者が冊子『鈴鹿市の戦争遺跡』片手にこの地を訪ねる姿が待ち遠しいかぎりです。

【加藤二三子代表挨拶】「不戦と平和の語り部として」

本日は、モニュメント『地・天』の完成式に、ご臨席くださいましてありがとうございます。市長様をはじめ、来賓のみなさまには、ご多用のなかご臨席くださいまして、厚くお礼を申し上げます。

さて、今、式典をおこなっていますこの地には、昭和１３年１０月に、鈴鹿海軍航空隊が開隊され、周辺には、海軍関連施設、鈴鹿川左岸の台地には、陸軍関連施設が建設され、関連施設の周辺には軍需工場が数多く建設・計画され、昭和１７年に「軍都・鈴鹿市」が誕生しました。軍都として誕生したという歴史を忘れてはならないと思います。

今年は、戦後７０年を迎え、戦争遺跡の破壊や風化が進み、戦争体験者の高齢化で、戦争の記憶が薄れつつあります。戦争を体験した世代が少なくなるなかで、物を残すことの意義が深まり、歴史の証言が「人から物」に移りつつあります。軍都として誕生した鈴鹿市誕生の生き証人である戦争遺跡の保存と活用が、いま、大きく問われようとしています。

［モニュメント除幕式テープカット］

平成２３年、民有地に唯一残された、鈴鹿海軍航空隊の巨大格納庫が保存運動の願いも届かず取り壊されました。鈴鹿市にもあった戦争の記憶と不戦への思い、平和の尊さを次世代に伝えていこうと、市民の会は、モニュメントの建立に取り組みました。建設資金は、鈴鹿市民をはじめ、県内、県外から３００人余の方々と１８の法人・団体から、温かい募金をお寄せいただきました。募金にご協力いただきましたみなさまには、心から感謝申し上げます。鈴鹿海軍航空隊で訓練を受けた訓練兵が、鈴鹿の空を旋回して飛び立ち、多くの若い命が戦争のために失われました。

制作者・三村先生の「忘れてはならない過去の時間を思いつつ、未来に向って一歩を踏み出したモニュメントにしたい」という思いとともに、モニュメントに思いを託し、不戦と平和の語り部として、次世代につないでいきたいと望みます。

モニュメント『地・天』は、鈴鹿市に寄付をさせていただき、今後の管理をお願いいたします。どうかよろしくお願い申し上げます。

［完成したモニュメント「地・天」］

【末松則子鈴鹿市長の祝辞】

モニュメント『地・天』の完成を心からお祝いいたします。そして寄贈していただきました「市民の会」に感謝申し上げます。鈴鹿海軍航空隊があったこの地は戦後、NTT のものとなり、そしてきょう、都市公園、防災公園として新たな一歩を踏み出したところです。制作にあたり三村先生は「忘れてはならない過去を思い、未来に向かって一歩踏み出す思いを込めた」と聞き及んでおります。らせんの軌跡のように、平和への思い、願いが、時代と時代をつなぎ、過去から現在、未来につながることを願って挨拶とさせていただきます。

［加藤二三子代表］

［末松則子市長］

【原田勝二鈴鹿市議会議長の祝辞】

モニュメント『地・天』の完成、まことにおめでとうございます。「市民の会」のみなさまが熱い思いで活動され、たくさんの募金を集められたと伺っております。みなさまと作者、三村さまの思いがこのような立派な作品として実を結ばれました。玉垣地区が現在のようになったその元が海軍航空隊だったこと、また、そのとき鈴鹿市が誕生したことを知っている人は非常に少なくなりました。７０年の時の流れを感じます。

「市民の会」と三村さまの後世に伝えていこうという思いが多くの人に伝わることを祈念して祝辞とさせていただきます。

【作者、三村力先生の話】「環のように平和な世界を」

２年ほど前、「市民の会」から制作の依頼を受け、３つ、４つのプランを用意しました。会のみなさまに見てもらい、最終的にこれに決めました。考えられないような山あり谷ありで、出来上がったのは、一昨日です。たくさんの人の力でピンチを乗り越え、完成できたことは夢のようです。

下の部分は格納庫をイメージしました。小栗康平監督の映画「埋もれ木」の撮影のお手伝いをしたとき、初めて中に入りました。扉を開けると真夏なのに、ひんやりした空間が広がっていました。あの空間を大事に作品にしようと思いました。それが御影石の４本の柱です。その上に、ステンレスをらせん状に載せました。戦闘機が旋回していた話を母から聞いており、それをイメージしました。また、真正面から見ると直径４㍍余の円に見えます。平和の環です。

感慨深い作品になりました。世界で悲しい争いが絶えませんが、この環のような平和な世界になってほしいと思います。

［三村 力先生］

【竹内宏行代表　閉式の挨拶】「ヴァイツゼッカーの言葉をかみしめて」

さきごろ亡くなったドイツの元大統領・ヴァイツゼッカーは、ナチスドイツがユダヤ人を大量虐殺した歴史を踏まえ、生前、次のような演説を残しています。「後になって過去を変えたり、起こらなかったりすることはできない。過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目になる」

この月曜日、私は市民会館で倉本聰脚本・演出の「ノクターン」というお芝居を観ました。フクシマの原発事故からちょうど４年になりますが、４年しかたっていないのに、そのとてつもない事故がなかったかのように人々から忘れられ、原発再稼働がどんどん進むという、風化の現実に強い疑問を投げかける作品でした。

戦争の方は第２次大戦が終わって、すなわち日本が負けて、今年で７０年になります。７０年といえば、世代がそっくり入れ替わる年月です。こちらは風化どころではありません。あったことすら知らない人々がほとんどといっても過言ではありません。原爆や空襲といった被害の歴史、中国や朝鮮半島への侵略という加害の歴史。それらがないまぜになった重い過去を忘れてはなりません。それを知り、見つめることなしに、未来はありません。もう一度ヴァイツゼッカーの言葉をくりかえします。「後になって過去を変えたり、起こらなかったりすることはできない。過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目になる」。

このモニュメントは、平和都市宣言をしている鈴鹿市と鈴鹿市民が、しっかりと過去を見つめ、そのことによって現在を見つめ、未来をきちんと見ようというものであります。みなさんに渡ししたこの記念冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」とセットで、多くの市民、とりわけ子どもたちに伝え、つなげていきたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。これをもちまして完成式典を閉じさせていただきます。

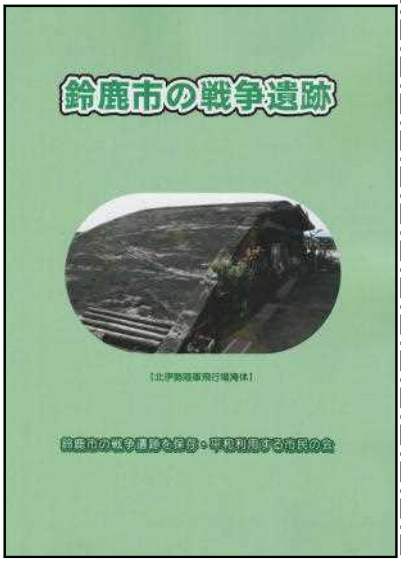
［竹内宏行代表］

冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」について

浅尾　悟（白鳥中学校 教諭）

モニュメントの完成に併せて、市民の会では「鈴鹿市の戦争遺跡」の冊子を作成し、私が執筆を担当しました。２００２年に鈴鹿市が市制６０周年記念として「鈴鹿市のあゆみ」を出版しましたが、この本は鈴鹿市の市制発足と市内の軍施設・戦争遺跡をまとめたものです。まとまった鈴鹿市の戦争関連の本としては最初のもので、多くの方々からご好評をいただきました。しかし、発行部数が少なかったことで、すぐに在庫がなくなり、十分に一般市民に行き渡ることができませんでした。またＡ４版であったり、ガイドブック的な仕様ではなかったため、現地の戦争遺跡を訪ねる際に持って歩くには少々不便な書籍でした。

市民の会では、発足当初から、一般市民が気軽に持ち歩けるサイズでの戦争遺跡のガイドブックの制作を考えてきました。今回、モニュメントの制作に併せて企画し、ようやく発刊することができました。できあがった冊子はＡ５版で７５ページのものです。基本的には市内の各軍施設の概要とその遺跡と関連遺物の説明を掲載し、案内地図を付けることで、その場所に訪ねやすくしました。また「コラム」を挿入し、鈴鹿市の発足や空襲、格納庫保存問題なども紹介しました。ただ、体裁は「ガイドブック」的な形をとりながらも、最新の研究成果を盛り込み、現存遺跡の建物の実測図も入れ、戦争遺跡研究者にも利用できるように配慮しています。また最後に７ページにわたり「鈴鹿市の戦争遺跡」関連年表を入れました。これほど詳しい市内の戦争関連の年表は他にはないと自負しています（この年表の作成に一番時間をかけています）。



市外、県外の戦争遺跡では１つの軍施設や戦争遺跡で１冊の書籍が発刊されるなど、調査・研究が進んでいる所も少なくありません。その点、鈴鹿市の戦争遺跡の調査・研究が進んでいるとは言い難く、この冊子の発刊がひとつのきっかけで、さらに市内の戦争遺跡の研究が進むことを期待しています。しかし戦後７０年が経過し、関連資料が元々少ない上に、戦争を体験した「生き証人」も少なくなり、このことは早急に取り組まなければならない課題です。

なお、この冊子に掲載した遺物のほとんどは私が個人的に所有しているものです。また鈴鹿市の戦争関連の書籍や紙面の関係で今回この冊子に掲載しなかった資料もたくさんあります。しかしこれらの資料を個人で持っていても調査・研究は広がりません。一刻も早く「鈴鹿市平和資料館」を開設し、そこに寄贈・一般公開することで、一般市民、とりわけ、将来の平和の建設を担う子どもたちに軍都「鈴鹿市」の真実と事実を知ってもらいたいと考えています。

戦争 次世代に伝える1冊

鈴鹿の旧軍事施設紹介

戦時中の軍施設を紹介する冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」

20年の調査まとめる

戦争の記憶を次世代に伝えようと、鈴鹿市の市民団体が、同市にかつてあった旧陸海軍の施設を紹介する冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」（A5判カラー、75ページ）を発刊した。

発刊したのは「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」。会のメンバーで、同市立白鳥中学校の浅尾悟教諭(59)が1993年から約20年かけて調査・研究した内容をまとめた。戦時中の写真や、現在も残る施設の写真、地図、年表などを掲載している。

鈴鹿では戦前から戦中にかけ、海軍航空基地や陸軍飛行場、海軍工廠などが次々と建設された。鈴鹿市は1942年に14町村が合併して誕生したが、軍施設は当時の市面積の約9％も占めたという。

冊子によると、合併は広さ約440万平方㍍の海軍工廠（1943年完成）を建設するにあたり、複数にまたがっていた町村を一つにまとめたいという軍の強い意向があったという。軍施設が同市に集中した理由についても、①軍需産業の中心だった名古屋に近かった②農村地帯だが人口密度が高く、食料生産や労働力に恵まれていた③季節風の風向きが一定で、飛行場建設に適していた――などと分析している。

浅尾教諭は「鈴鹿に多くの軍事施設があった事実を若い世代が知り、歴史を継承してもらえれば」と話している。

冊子は3000部で、市内の小中学校や高校などに寄贈するほか、1部500円（税込み）で頒布している。問い合わせは、市民の会共同代表の竹内宏行さん（090・2772・1476）。

↑
読売新聞（２０１５年３月５日）

平和の大切さ 次代に

鈴鹿 旧海軍基地跡にモニュメント

市民団体「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が、鈴鹿市白子町の旧鈴鹿海軍航空基地跡地に整備された「桜の森公園」（市防災公園）に建てていた高さ6・4㍍のモニュメントができ、28日、完成式があった。

県立飯野高校教諭で彫刻家の三村力さん(60)が制作し、作品名は「地・天」。4本の御影石の柱の上に、ステンレス製のパイプをらせん状にした円環が載せてある。柱は取り壊された航空機の格納庫、円環は平和をイメージしているという。

制作費約300万円は市民や法人・団体による寄付だ。

基地跡は戦後、旧電電公社（NTT）に払い下げられ、職員研修などに使われてきた。再開発に伴い、残っていた格納庫3棟の取り壊しが決まり、「市民の会」は「平和を語り継ぐ貴重な戦争遺跡」として残す運動を展開したが、部材を一部残して撤去された。

式典であいさつした会の共同代表の1人、加藤二三子さん(80)は「戦争体験者が高齢化し、歴史の証言が『人から物』に移りつつある。今年は戦後70年。平和の大切さを伝えるために格納庫を残したかったが、かなわなかった」と振り返り、モニュメントとして残す必要性を訴えた。

モニュメントは式典後、鈴鹿市に寄贈された。完成記念に会が刊行した冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」（75ページ）を寄付した人に贈り、市内の小中学校や高校、図書館などにも寄贈する。

（佐野登）

←朝日新聞（２０１５年３月１日）

中日新聞（２０１５年３月４日）

日新聞　2015年（平成27年）3月4日（水曜日）

戦争遺跡 忘れるな

桜の森公園モニュメント

鈴鹿の市民団体が寄贈

市民団体「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が、旧鈴鹿海軍航空隊跡地（鈴鹿市南玉垣町、白子町など）に市が整備した防災公園「桜の森公園」の一角に巨大なモニュメントを建て、市に寄贈した。費用を一般からの募金で賄った記念碑が、不戦への思いを次世代に伝える。（鈴木智重）

鈴鹿市の飯野高教諭で彫刻家の三村力さん（六〇）＝三日市町＝が制作を担当し、二月二十五日に開園した公園の南端入り口前に設置した。「地・天」と題した碑は高さ六・四㍍で、御影石の柱四本の上に、らせん状のステンレス製パイプを載せた。柱は跡地で取り壊された航空機の格納庫を、らせんは航空機の航跡をイメージした。パイプは視点を変えると平和を表す円環にも見える。

戦後、ＮＴＴ西日本の研修施設などに使われた海軍航空隊跡地は、十年ほど前に再開発計画が浮上。市民の会は、一角に残っていた格納庫三棟の保存を目指して運動を展開したが、四年前に取り壊された。

モニュメントの制作は、軍主導で作られた鈴鹿の歴史や平和の尊さを伝えるために格納庫に代わる象徴を、との思いから。会が募金を呼び掛けると、十八団体、三百三人から三百万円が集まった。

共同代表の加藤二三子さん（六〇）は「命を守る防災公園に、平和を願うためのモニュメントが完成した。今年は戦後七十年。体験者が高齢化し歴史の証人が人からモノに変わりつつある。記念碑を残す意味は深い」と話した。

市民の会は完成を記念し、冊子「鈴鹿市の戦争遺跡」（Ａ５判、七十五㌻）を作成した。寄付者に渡すほか、市内の小中高校、図書館などに送る。

旧鈴鹿海軍航空隊跡地に設けられたモニュメント＝鈴鹿市の桜の森公園で

モニュメント完成記念に作成した冊子

２０１５年度「市民の会」総会のご案内

日時；２０１５年５月１７日（日）１３時３０分より
場所；ジェフリーすずか　（鈴鹿市神戸二丁目 **15** 番 **18** 号）
内容；**2014** 年度活動報告と会計報告、**2015** 年度活動計画・予算・役員選出、講演など

【発行】　鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
代　表　加藤二三子、竹内宏行
〒 510-0254 鈴鹿市寺家１－２－４７
電　話　　０５９－３８８－６５０８
メール　ta818hi@mecha.ne.jp
ＨＰ　http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm